

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社 ユニマツト リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風 (東フロアー)		
所在地	京都府京都市右京区西院西田町61		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700121-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700121-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年3月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

近隣に公園・学校・保育園・天神川の桜並木・素晴らしい環境に恵まれた地域に立地している施設です。地域行事の参加を通じ地域の方とのふれあいも大切にしております。家族・入居者の思いを大切に、寄り添い傾聴しその人らしい暮らしが送れるようにスタッフ全員で支援出来るようにつとめています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は利用者の思いの把握に努め、担当職員のみならず様々な情報シートを駆使し、日々の関わりの中で知れた情報を全職員が共有し利用者がホームで穏やかな生活が送れるように支援しています。また職員間のコミュニケーションを大切に、小さなことでも話し合い職員会議にも図って検討しています。日々の地道な努力により町内会にも加入し運営推進会議の参加も得る中、老人会との交流やふれあいサロンへの参加、地域の子供たちとのイベント参加など、地域交流が広がっています。家族との関係も良好で、年に2回の家族会では多くの家族が来訪し利用者と共に楽しめる機会となっています。頻繁にホームへの来訪があり家族から率直な意見を聞き、外出を増やしてほしいとの意見に外出レクリエーションを設けるなど希望に沿ったケアを心がけています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげるよう努めています。	設立時に職員間で話し合い作成した理念を、利用者が清書し掲示しています。新入職員にはまず理念を伝え、それをもとに育成しています。職員は利用者の希望に沿ったケアをすることが、理念の実践に繋がることを日々確認し合い共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の方が施設を利用したりして交流をしています。	年に数回、近隣公園で地域の子供達との交流イベントに参加したり、ふれあいサロンに出かけています。また町内会に入り回覧板や運営推進会議で町内会長より情報を得て、老人会が作った弁当を定期的に購入しています。併設デイサービスに大正琴や手品等ボランティアが来る際には利用者也参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に利用者も参加して頂いたりして理解して頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるように努めています。	運営推進会議は2か月毎に利用者や地域、行政等が参加して開催されています。ホームの状況報告がなされる他、服薬について等の質問に答えたり、防犯カメラの設置について参加者で検討するなどホーム内や地域からの要望を議題に話し合っています。家族は日時等の都合で参加が少ないため、議事録を送付して報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来る限り協力していけるように努めています。	管理者は運営推進会議の議事録を毎回持参し、右京区担当者と面談し、ホームの現況報告をしています。また区主催の研修会に参加し、互いに情報交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会・ユニット会議などで意識向上に努めています。	外部研修に参加したり、ホーム内でも身体拘束に関する研修を行っています。またユニット会議で事例をもとに職員の言動についても確認合っています。エレベーターのキーロックについては家族に意見を聞いたり、職員会議の中で検討し、利用者が少しでも閉塞感を感じる事が無いよう、希望に沿った外出支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・ユニット会議などで意識向上に努めています。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を持っていますが、活用されていないように思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得して頂けていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設け家族の意見・要望が反映出来るように努めています。	運営推進会議の中で利用者の意見を聞いています。家族の意見は、年に2回開催する家族会の際や頻繁にある来訪時に時間をとって聞いています。外出を増やしてほしいとの意見に外出レクリエーションを設け対応するなど、職員は利用者や家族の意見を真摯に受け止め検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議やユニット会議に意見や提案を聞く機会を設け反映出来るように努めています。。	管理者はユニット会議等で意見や提案を聞く機会を作り、意見が出にくい時には職員個々が意見を出せるよう指名して聞いています。また日々の関わりの中で吸い上げた意見を取りまとめて議題に挙げています。勤務時間帯や業務分担の変更等、何でも職員間で相談して決めています。センター長との個人面談で意見を言う機会も確保されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分とは言えませんが面談などを定期的に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や内部研修会に参加して頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分ではありませんが、交流会や勉強会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の要望や意見に耳を傾け安心して生活して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見に耳を傾け、本人が安心して生活して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じた支援が出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、暮らしを共にする関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問出来る雰囲気を作り、一緒に過ごす時間を大切にして頂けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をえて支援で来るように努めています。	近所の方がホームを頻繁に訪問し、ドライブや外食に誘ってくれたり、以前の山登り友達等が訪ねてくれています。家族の支援で自宅に帰ったり、教会のミサに定期的に参加している利用者もいます。職員は利用者が家族や友人に年賀状を出したり電話をかける支援を行い、馴染みの関係が途切れないよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフも一緒にかかわり支え合えるよう努めています。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	十分ではありませんが出来る限りの支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を聞き、把握できるように努めています。	入居前に自宅等を訪問し、利用者に希望を聞いたり、家族に「希望の処方箋」と称する情報シートに、生活の希望や注意点等を記入してもらいアセスメントに繋げています。入居後は職員が日々の関わりの中で得た情報を専用のシートに記入して、カンファレンスで検討し思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やサービス利用情報を得て把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録やバイタルなどをもとに一人ひとりの現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成しています。	利用者や家族の希望をもとにカンファレンスで検討し、介護計画を作成しています。担当職員が介護計画と連動した日々の記録を基に毎月モニタリングを行い、3か月ごとに再アセスメントを行った後見直しシートを作成し、現状に即した介護計画に変更しています。その際には、往診時に得た医師や看護師の情報も反映しています。また介護計画の案を作成した時点で家族に説明し意向を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の情報を共有し介護計画の見直しに活用していけるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて取り組んでいます。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園・学校などを通じて暮らしを楽しんで頂けるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療により適切な医療をうけられるように支援しています。	入居の際にかかりつけ医について説明し、利用者や家族に希望を聞いていますが、現在全員がホームの協力医を利用しています。定期的に協力医の他、鍼灸医や歯科衛生士の訪問を受け、日々の健康管理に努めています。往診後には協力医と看護師、ホームの看護師、薬剤師、職員がカンファレンスを行い、情報交換しています。また緊急時には協力医の指示で協力病院の各科にスムーズに受診できる体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制のもと適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談が出来るように連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・協力医療機関・で必要に応じた支援を話し合いチームで取り組むようにしています。	入居時にホームの方針として、医療行為が必要なく希望があれば看取りを行うことを家族に説明しています。重度化した際には家族と医師、職員でカンファレンスを行い、医師の説明を受けたうえで同意書を交わしています。以前、ホームで最期を迎えた利用者もあり、状況の変化の度に家族と話し合いを重ね、資料や本をもとに看護師に勉強会を開いてもらい支援に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習や緊急時対応マニュアルに基づき対応が出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練の実施・マニュアルによる対応が出来るように努めています。	年に2回、昼夜を想定して併設事業所と合同で火災訓練を開催しています。消防署立会いの際には歩ける利用者と一緒に参加し、通報や初期消火、避難訓練を行っています。運営推進会議の際に呼びかけたり、近隣にも声掛けしていますが、地域の参加がないのが現状です。水や食糧、缶詰等の備蓄も用意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や研修会などで意識付けるようにし、十分ではありませんが、お客様と意識した対応に努めています。	全体会議や新人研修の際に接遇やプライバシーの研修を行っています。ホームでは尊敬語を基本とし、職員は利用者に対しお客様としての言葉遣いで接するよう心がけています。慣れてくると親しみを込めた呼び方になることもあり、不適切な言動が見られた場合は、その場で管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、自己決定出来るように働き掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えませんが、一人ひとりの希望にそった支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援するように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かし、一緒に食事・家事を楽しめるように支援しています。	献立は職員が利用者に希望を聞くなどして1週間毎に立て、食材は毎日業者が届けて来ています。誕生日には利用者の好きな献立に変更し、買い物も一緒に出掛けたり、時にはファミリーレストランや回転ずし等外食に行き好きなものを注文しています。利用者は盛り付けや配膳、食器拭きなどに携わり、職員は同じものを食べ会話を楽しみ和やかな食事の時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合った支援が出来るように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科訪問診療や個々に合ったケアを支援しています。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合った支援をしています。出来る限りトイレでの排泄を支援しています。	職員は排泄チェック表をもとに利用者に声掛けし、車いすの方を含めトイレで排泄できるよう支援しています。入院中おむつを使用していた利用者が退院後誘導によりトイレで排泄できるようになるなど、日々の利用者の様子を見て職員間で相談したうえでカンファレンスで検討し変更しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の制限はありますが、無理なく楽しく入浴して頂けるように支援しています。	3日に一度は入浴できるよう支援し、職員体制がある時間帯であれば、毎日の入浴も可能です。車椅子の利用者もデイサービスの機械浴を利用することができます。拒否が見られる利用者は、夕食後に声掛けしたり職員が交代して誘導しています。湯は個々に入れ替え、入浴剤やしょうぶ湯、ゆず湯、バラ風呂などで楽しみながら入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて、休息して頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報を共有し、支援・管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分ではありませんが、個々に合った支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った支援ができるよう努めています。	利用者の意向に沿って、個々の嗜好品等の買い物や外出に出かけています。また外出や弁当持参で花見や紅葉狩り、初詣等に出かけています。職員の体制のある時は短時間でも外に行き、外に出られない時は、ユニット入り口を開け放し自由に移動することで、利用者同志の交流を図っています。	



天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物など一緒に行くなどして支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話に出て頂いたり、手紙(ハガキ)を書くなど制限なく支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感を感じられるように工夫しています。	窓枠のプランターに花を植えたり、季節の花の貼り絵をリビング各所に飾り季節感を採り入れています。リビングの大きい窓はカーテンで採光を調整し、毎朝利用者と職員が一緒に掃除し換気に努めています。玄関にベンチを置いたり、窓際に椅子やソファを配置し、利用者が好きな所で過ごせる空間を設けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り思い思いに過ごして頂けるように席やテーブルで工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分ではありませんが、本人が居心地よく過ごして頂けるように、馴染みのあるものを取り入れ工夫しています。	利用者は自宅から使い慣れた和ダンスや机、座椅子、テレビ、鏡台、家族の写真等を持参し、家族と相談して配置を決めています。利用者は以前カルチャーセンターで講師を務めていた際に作った人形を椅子に座らせたり、塗り絵を居室前に飾るなど、思い思いの居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分ではありませんが、自立した生活が出来るよう工夫しています。		